

軽井沢土曜懇話会

第2回 6月17日(土) 15:00~

ポンペイとソンマ・ヴェスヴィアーナ

東京大学は2002年からヴェスヴィオ火山の北山麓にあるソンマ・ヴェスヴィアーナ市で発掘調査を行っている。いまから70年ほどさかのぼる1930年代にローマ時代の遺構が発見され、試掘の結果、ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスの別荘ではないかと考えられた遺跡である。これまでの調査でアウグストゥスの別荘である可能性は小さくなったが、出土した建築遺構や大理石の彫刻は、単なる個人の別荘遺跡ではなく、宗教的な施設である可能性を大きくしている。これまでの発掘の成果を紹介すると同時に、ヴェスヴィオ火山の噴火で埋没したポンペイとどのような関係にあるのかを紹介し、私たちの研究課題である「火山噴火罹災地の自然・文化環境復元」の進捗状況を報告したい。

講 師 青柳 正規 氏

(国立西洋美術館長)

1944年満州生まれ。ギリシア・ローマ考古学者。1967年東京大学文学部美術史学科卒業。1969~1972年ローマ大学に留学、古代ローマ美術史・考古学を学ぶ。文学博士。東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授、同研究科長、文学部長、同副学長を経て、現在、国立西洋美術館長。日本におけるポンペイ研究の第一人者。著作は、『皇帝たちの都ローマ』『トリマルキオの饗宴』(共に中公新書)、『ポンペイの遺産』(小学館)、ジュゼッピーナ・チェルリ・イレリ氏との共著に『ポンペイの壁画』(岩波書店)、糸井重里氏との共著に『ポンペイに学べ』(朝日出版社)などがある。